

# 平成24年度第2回「仙北市立病院等改革推進計画」検証専門委員会

## 議 事 録

- ◆日 時 平成25年3月8日（金）17：30～18：33
- ◆場 所 角館交流センター 第1研修室
- ◆出席者 【委員】 委員長他2名 合計3名  
【病院事業】 両病院事務長等・医療局職員（事務局）
- ◆検証事項 1）市立病院の平成24年度上半期の運営状況について  
2）仙北市立病院等改革推進計画の進捗状況について  
3）その他

\*\*\*\*\*

### 1. 開会（17：30）

### 2. 医療局長あいさつ

本来であれば管理者がここでご挨拶申し上げるところですが、1月中旬に転倒し圧迫骨折しまして、現在飯田市の自宅で療養中ですので、私が代わってご挨拶申し上げます。

例年であればこの検証委員会は1月下旬から2月上旬に開催しておりましたが、管理者や委員の皆様の日程調整をしているうちに延び延びになり、本日の開催となり誠に申し訳なく思っております。3名という委員の皆様参加ではありますが、忌憚のない意見を述べていただき検証していただければと思っております。よろしくお願いいたします。

本日の検証案件は事前に配布しております資料のとおりです。平成24年度上半期の運営状況についてですので、よろしくお願いいたします。

### 3. 委員長あいさつ

お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。例年にない大雪もやっと落ち着いてきたようですが、やはり雪が多いと患者さんの足の問題もあって私のところも冬期間の患者さんはだいぶ減っておりますので、市立病院においても今回のデータには載っていないと思いますが、あまりいい傾向ではないのではと心配しております。

恒例の会議でありますけれども上半期の実績について委員の皆さんからいろいろご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### 4. 検証事項

委員長

それでは、検証事項の1番「市立病院の平成24年度上半期の運営状況について」から始めたいと思います。事務局の方から資料の説明をお願いします。

資料説明（事務局：医療局）

資料1 「平成24年度上半期仙北市病院事業の総括事項」

資料2 「平成24年度上半期仙北市病院事業の実績」

資料3 「両病院上半期年次別入院・外来患者数の実績」

資料4 「両病院等上半期地区別利用者数（入院・外来）の推移」

資料5 「両病院上半期収支決算の状況（過去3年分）」

委員長

ただいまの説明につきまして、委員の方から質問を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員長職務代理者

非常にいい数字で、皆さんの努力の賜だと思います。すべての数値に改善が見られ、特に田沢湖病院の改善率が年間目標を大きく上回っているのが非常に特筆すべき点だと思います。

惜しむらくは、角館総合病院の病床利用率が77.1%とまだちょっと低い。これは総合診療科や循環器科のドクターがいないためで、これを改善するのは少し難しいと思いますが、医療局で何か角館総合病院の病床利用率をアップするような対策は考えているのでしょうか。

医療局長

総合診療科の常勤医師の件ですが、県職員医師が4月1日から1名配置いただけることになりましたので、その部分は回復できるのではないかと思います。先ほども説明しましたが昨年度1万人を超える入院患者を抱えている循環器内科の部分ですので、かなり改善できているとっております。昨年度までいた医師がまた戻って来てくれることになりました。

関連でお話ししますと、県から田沢湖病院に内科医を2名派遣いただいておりますが、その内1名が秋田大学病院と入れ替わりますが人員的には増減がありません。

委員長

総合診療科の医師が復活するというのは非常に喜ばしい事です。そうすればいろいろな面でいい方向に行くと思いますが、いかんせん1人ですので1人に全部責任と仕事が集中するような事になりますと、またやめたという話になりかねません。

もちろん医療局でもフォローを考えていただきたいですし、病院でも是非総合診療科の先生をまわりでフォローしていただきたいと思います。

〇〇先生いかがでしょうか。

## 委員

私もこれを読ませてもらって非常に改善していて、実態は本当にこうなっているのか疑問に思っている部分もあります。田沢湖病院がこれだけ改善したのは、何が原因なのか。病床率が上がったということでしょうか。

## 事務長（田沢湖病院）

23年度までは看護師が非常に少なく、充足率、看護基準の問題で患者を抑えていたところがありました。

4月から看護部門だけで補助者を含め6名臨時職員を採用しました。経営改善ということで経費削減だけに走り収入を確保する方がおろそかになっていたようで院長と相談のうえ、障害者病棟ではいろいろな加算がもう取れませので、頭数勝負しかないということでした。

当然職員給与費の賃金の部分は増えていますが、収益の方でも900万円ほど増収出来ていますので、そういう理由で回転率が上がったということでございます。病床利用率84.8%はたぶん田沢湖病院開設以来の数値になっていると思います。

## 委員

角館病院は患者が減少しているのですけれども、今までいた患者が大曲などに行っているのでしょうか。診療所から行っている慢性の患者は結構田沢湖病院を受診している。そういう意味で患者の数がある程度確保できていると見ていました。

## 事務長(角館総合病院)

患者数については、ご存じのとおり総合診療科の医師が24年度については配置されていませんでしたので、その分入院患者数については減となっています。収益についてはかなり改善されていますが、診療報酬の改定や加算を取れる部分は出来るだけ加算を取ると検討しまして、現在のところ患者1人あたり800円近い増となっています。その部分が大きく収益に反映されていると思っています。

## 委員長

私も上半期を見た感じでは、特に角館病院の入院患者の減少にもかかわらず収益が上がっていて経営的には頑張っている。

田沢湖病院は病床利用率が良くて黒字が出ている状態ですので、非常に喜ばしいことだと思います。もちろんこのまま続けていただきたいのですが、一つだけ気になったのは外来患者数が少し減っている。田沢湖病院は基本的に障害者病棟をメインで急性期を診ているのはわずかですから、地域住民に対する病院ということから言うと外来患者数が減っているというのは存在意義からして少しまずいという気がします。もちろん人口も減っていますから、そういうこともあるかもしれませんが、なにか病院で考えていますか。

事務長（田沢湖病院）

委員長の言われるとおり外来患者数は減っております。前回の検証委員会で地震に関連するお話を申し上げましたが、去年の4月と比べた場合は4Pの資料3を見ていただくと歴然ですが、23年の4月は震災の影響で薬の流通がうまく出来ていなかったためにどうしても投薬制限をせざるを得ず、1日平均164.7人という莫大な数となっておりますので、そういう面でも24年度の外来患者は落ちた感じ です。

去年4月、5月の1日あたりの患者数が異常に多くて、今年比較しますとこの要因を除けばだいたい去年と同じような推移で来ていると分析しております。

7Pの資料4に入院と外来の地区別の人数を出しておりますが、特に外来は田沢、生保内地区の患者の占める割合だけでおよそ90%近いので、地域密着型の病院としましてはこの地域の過疎化、高齢化による人口の自然減少が外来患者の減少につながったと分析しています。

ただそういう状況をいつまでも続けるわけにはいかないもので、10月から夕暮れ診療を木曜日1日増やして救急が出来ない分少しでも市民の方の利便性を図りたいと施策を講じています。

委員長

夕暮れ診療の効果のほどはどうでしょうか。まだ数字はまとまっていないかもしれませんが。

事務長（田沢湖病院）

10月当初はあまり利用がありませんでしたが最近はだんだん増えてきていて、先生たちは夕暮れ診療にも予約を入れるようになってきました。そのため日中の患者が流れる面もあるかと思いますが、定着するまではもう少しPRしなければいけないと思っています。

医療局長

現在、田沢湖病院の常勤医師は院長が外科、内科が2名です。診療科別の患者数を見ますと整形外科が週2回半日ずつ非常勤の医師に来ていただいておりますが、患者数で3,028人、約2割をしめているということで、整形外科の常勤医を確保したいと管理者も力を入れていますが、なかなか良い報告が出来ない状況です。

仙北市全体もそうですが高齢の方が多い地域ですし、特別難しい手術を必要としない患者の需要が多いと思われま すので、そういう感じの常勤医の確保に力を入れているという状況です。

委員長職務代理者

今、耳鼻科もたしか来ていますよね。どれぐらいの割合ですか。

事務長（田沢湖病院）

耳鼻科も週2回お願いしています。上半期だけで619人。率にして全体の4%です。

委員長

私も整形外科ですが、整形外科で大学の医局に所属している先生を田沢湖病院にというのは

おそらくこれからは難しいと思います。やっぱり1人では手術も出来ませんし、昔は一人科長というのがたくさんありましたが、今は集約する方向になっている。そうなれば病院の手術等をリタイアされて開業されない方であればなかなか難しいと思います。

ただ高齢者の多い地域ですので、相当なニーズがあるのは数字を見ても明らかですので、是非確保できればと私も思います。〇〇先生何かございませんか。

#### 委員

検証委員会から少し外れるかもしれませんが、角館病院が新しい病院になっていく時に、これからの患者数の見通しは持っているのですか。医師の関係もあるのですが、私から見るとどういう病院にしていくのかという理念やそこで働く医師たちが何を目的にどういう医療をやっているかと思っているのかなかなか伝わってこない。

これからも医師が入って来て、こんな医療をやっていく、こんな医療をやっているのでこの病院に来るという見通しが無いのではないのかという事が一つです。

また、病院でどういう患者を対象に扱っていくのか。たとえば入院が必要な人たちを角館病院が責任を持ってやっていくのか。慢性的なものは民間や診療所で扱っていくのか。そういう点がどうもはっきりしない。今経営はある程度上向いていますが、今後もそれが続いていくのか、新しい病院にすればどういう医療が可能なのでしょうか。そういう点はどう考えていますか。

#### 医療局長

次の進捗状況の9Pの資料6経営の効率化の⑥、市立角館病院の病床数の検討の中で病院建設と併せてという部分でお話ししようと思っていました。

先ほど基本設計業務の発注契約を締結したとお話ししましたが、現在一般病床230床、精神病床65床の計295床で運営しております。基本設計業務の発注仕様の中では、一般病床170、精神病床36の206床ということになっております。これは10年後、20年後の仙北市に必要な病床数を算定し田沢湖病院の60床を差し引いたものとなっております。

それはあくまでも推計です。27年秋の開業を目標にしていますが、その時点では206床プラス田沢湖の60床では少し少ないですが、20年後、30年後の人口推移を見るとそこら辺が妥当ではないかと算定した数字でございます。

それから民間の病院や市立の診療所との連携の部分ですが、大曲仙北2次医療圏で中核的な病院として県で位置づけられているのが、仙北組合、中通と角館総合病院ということになりますので、大仙市の一部を含めたこのエリアの中での入院機能を持った位置づけは変わらないものだと考えております。

診療科についても先ほど先生からお話しがあったように、医師の確保ということが大きな問題ですが、現在の診療科は維持するという方向で考えているという状況でございます。

皆様ご承知かと思いますが、県の医師不足・医師偏在改善計画が昨年11月に策定されましたが、それでは平成37年には秋田県内全域の医師偏在・医師不足が解消されるという計画になっていますが、10年以上先の話でそれまでの間どうしていくかという問題は計画の中でも

示されていません。門脇市長も策定委員になっていましたが、そういう意見を述べたけれども計画の中に反映されず、ここ何年10年以内の改善計画が示されていないため、その部分をどうするか先生のご質問に対してお答えできないところが非常に歯がゆいところです。

#### 委員

確かに医師を確保しなければ病院の理念などはなかなか出てこないと思うのですが、私は10年先までのつなぎとして田沢湖病院でやったように、看護師を充足するとかもう少し鍛えるとか、残っている医師たちが団結してこの状況の中でどういう医療をやっていくのか。そういったことをやるだけでそれが外に波及していくものだと思っています。

だから今、角館病院の人材の中で何を指すのかもっと議論をよくやって、こういう医療をこれから10年間はこれだけやっていく、こういうところを目指しそして将来的にはこうやるともっと積極的に出して、田沢湖や診療所、民間のお医者さんたちとの連携をきちんと取って、少ない乏しい医療、材料の中で何をまとめ上げていくのかそういうことをもっと追求してもいいのではないのでしょうか。

たとえば現状は数が少ないからといってそこだけにとらわれるのではなくて、もうちょっと今いる中で何が出来るのかもっと積極的な形で提起していてもいいのではないか。あるいはそういうのが私たちに伝わってきてもいいのではないかと思っているのですが、そういう点で少し足りない感じを受けている。

経済的な面とはかけ離れたことですが、私が疑問に思ったことを話してみました。

#### 委員長

全然関係ないことではなくて、そういうところがある程度見えないと、新病院は建てたけれどもどこかの病院と同じになってしまったのでは元も子もないので、その辺のところは今日病院の先生方がいらっしゃる訳ではないので、これ以上言ってもしょうがないのですが。

#### 委員長職務代理者

冬場の除雪やその他の状況はどうでしょうか。費用的には例年よりかなりかかっている感じですか。今年は雪が降ったのは同じぐらいだが溶けなくて困っている。除雪費用やかなり寒いので暖房料は、どうでしょうか。

#### 事務長（角館総合病院）

現状を申し上げますと、ご覧の通り狭隘な施設で患者さんには駐車場についてはこの冬はかなりご不便をおかけしました。除雪費に関しては、例年よりかなり掛かりましています。暖房費につきましても経費の節減は、出来る限りしましたが、どうしても患者さんがいらっしゃるので我慢できない部分で、通常通り暖房その他についてはやってきましたが、燃料費の高騰によりまして、掛かりましている部分はあります。

事務長（田沢湖病院）

田沢湖は角館と少し違い前半確かに雪は少なかったです。ただ後半は帳尻あわせのように降ったので、除雪経費については去年に比べ大きな伸びはないと思います。しかしこのとおり油の買値がどんどん上がっていますので、エネルギーはA重油ですけれども、この購入単価が高くなった分、燃料費がかさむ見込みです。

委員長

生保内は最初のうちは思ったより雪が少なかったですから、その分では良かったのかもしれませんが、角館は結構降ったので、こればかりはいかんともしがたいところが見られますので、ところで、角館の新病院を建てたときにその除雪に対して何か工夫とかお考えになっているところはあるのでしょうか。

事務長（角館総合病院）

今現在、設計業者からプロポーザルされ考えているのは、基本的には除雪で一部融雪を考えています。駐車場はご存じのとおり敷地は広くなりますので、除雪を考慮した形での駐車場を確保したいと思っています。雪を寄せるスペースをある程度考慮した形で患者が十分駐車できるスペースを確保し、一部融雪は必要だろうということで今考えています。

委員長

このぐらいでよろしいでしょうか。それでは、次に仙北市立病院等改革推進計画の進捗状況について、事務局より説明をお願いします。

## 2) 仙北市立病院等推進計画の進捗状況について

資料説明（事務局：医療局）

資料6 「市立病院等改革推進計画進捗状況」

委員長

ただいまの説明につきまして、何かございますか。

委員

細かなことで私の診療所に関係してくるのですが、うちで点滴として心房細動の薬を買うときに、1ダース12本で買います。心房細動で注射を打たなければ行けない患者は年間で1人か2人です。何年かすると期限が切れてしまっって廃棄しなければいけない。在宅で心房細動をもっている患者に使いたいのに1本だけ買うわけにはいかないため非常に苦慮している。

そこでシステムネットワークとか物流システムを診療所も含めた形で、そういったところから買ってもらって1本や2本を小分けみたいな形でやってもらって非常に我々としては助かる。

診療所みたいな小さなところである程度必要だけど、たくさん買わなければいけない薬とかそういうものをいつでも注文すれば、そちらからこちらに渡してもらえるとというようなシステ

ムがあれば非常にありがたいと思います。

それから田沢湖病院の給食業務について、民間に委託して何かメリットはありましたか。前に成人病医療センターに行った時、事務を民間に委託していて事務の人たちが非常に素っ気なくて、患者に対して非常に不愉快な感じがしたが、民間にしたことで何か問題はなかったですか。

事務長（田沢湖病院）

給食業務の委託化ですけれども、推進計画として経営改善、いわゆるコストを削減しようという目的は当然あったと思うのですが、自前でやっているときと日清医療食品という会社に、角館と一緒に契約していますが、1食あたりの委託コストが高いためにはっきり申し上げてその費用対効果はあまりありません。

ただし、幸いなことにスタッフが常に安定していきまして、うちの栄養士が献立をたてていますが患者さんや研修医等からの評判は、角館病院の業者と同じなのになんで食事が違うのと食事の内容についてはお褒めの言葉をいただいています。

ただ残念ながら当初の目的の経営改善のための費用対効果については、若干見積りが甘かったのかなという思いはあります。

医療局長

前段の物流の部分ですが、誠に申し訳ありませんが、病院事業だけで考えていたのでそれが可能かどうかお答えできる状況ではありません。意向については伺いました。たぶんそれは〇〇先生だけではなく〇〇先生の方でも同じ問題が発生すると思います。

事務長（田沢湖病院）

〇〇先生のお話に関連してですが、〇〇先生の診療所でも同じような悩みがありました。直接的なお願いがありまして、診療材料は別ですが、特に医薬品については先生のところも在宅もあるし、たとえば100錠包装なら100錠単位で買わなければいけないし、期限切れになるようなら田沢湖病院で採用のあるものは買い取りましようというような話はしていますが、実際それをやっているかと言えばまだ1度もありません。場合によっては先生方個々と交渉してやればと思います。

委員長

いずれどちらも仙北市立の医療機関なので、融通をして効率化出来ることはやった方が良いでしょう。私も診療所を運営しておりますが、普段大量に使う薬は全く問題ないが、まれにしか使わないがおいておかなければいけない薬は1箱買って1本か2本使って、後は全部期限切れで捨てているものが必ず出てきて非常にもったいない。是非そういうことを検討していただければと思います。診療所の先生たちも非常に助かることだし、ひいては仙北市全体としての無駄遣いがなくなるという事になりますので、検討していただければと思います。

事務長（田沢湖病院）

推進計画の進捗状況に関連してですが、田沢湖病院の給食業務の委託化の下に3)田沢湖病院の外来投薬の院外処方化とありましたが、計画上では院外処方にしたいという事でした。ただ22年当時現在の薬価差のままでは当面院内処方した方がメリットあるので、これを当面継続しますと決めておりました。

しかし24年度の価格交渉が大詰めに入っておりますが、先生方ご承知のとおり非常に厳しい状況です。果たしてこれがいつまでやれるのかということここ1回か2回の薬価改正状況を見て判断しなければ、いつまでも薬価差にこだわってはいただけないというふうに補足させていただきたいと思います。

委員長

実際今薬価差というものはどんどんなくなってきている状況ですし、消費税の話がどうなるかわかりませんが、もしこれで消費税をまろにかぶるような話に、そうはならないと思いますが、そういうことになると、院内処方のメリットは全部吹っ飛んでしまうと思いますので、その辺はまた当然考え直していただかないといけない。

患者さんにとっては、院内がいいのはあるわけですが。

委員長職務代理者

田沢湖病院の給食業務委託の話でしたが、角館の病院はすでに委託しているのですか。

事務長（角館総合病院）

平成10数年からすでに委託化されています。

委員長職務代理者

病院の通路のところに大きい給食センターがありましたが、あそこで作っているのですか。

事務長（角館総合病院）

そうです。あそこで作っています。

委員長

この辺だとなかなか難しいでしょうね。都会のようなところでいくつも病院があるようなところだと大きな給食センターから配送するような形に出来れば、もっとコストも下がるとは思います。

委員

7番の給与事務と出納事務という事に関してですが、これは病院だけですか。診療所は入っていないのですか。

## 医療局長

事務的な話ですが、病院は企業会計で先生の診療所は特別会計となりますので、担当が病院は医療局でやっていますし、先生の方は一般会計も含めて給与は総務の職員担当がやっていますし、支払関係は会計でやっています。これを 1 本化というのは制度的に難しい部分があると思います。

## 委員

理想論ですが、仙北市の医療スタッフ、医療施設について統一していく上に置いて、経済的基盤を一本にして、各先生たちの給料もある程度ばらばらな形でやるのではなくて、仙北市としてはどういう形でやるのか一本にして行くというほうがいい。

たとえばある先生は忙しいけれど安い給料で、ある先生はそんなに忙しくないけれどある程度高い給料をもらっているとかバラバラになっているような気がしますし、そういう話し合いはほとんどなされていない。

少なくとも私の場合は契約してそれからずっと同じままになっている。だから給料の面などこれから人材、医師を獲得していくうえにおいても、そこで満足して働けるような状況を作ってもらいたい。なんで俺だけ安いとかそういう不平等な気持ちを持たせないためにも、ある程度一本化して行くことが必要だと思います。

だから病院の経営にしても、一体化すると言うことで、仙北市の医療をどうやって行くのか経済的な裏付けとして非常に重要だと思っています。田沢湖病院と角館病院を一元化すればかなりの部分はそれで占められるでしょうけれども、私たちから見ていると仙北市全体としてどういう医療をやっていくのか、そのための裏付けとして経済的な財政をどうやって行くのかそういうのもっと積極的な形で展開してほしいというのが私の希望です。

## 医療局長

現在皆さんに検証していただいています改革推進計画は、仙北市立病院等改革推進計画ということで平成 20 年に策定していただき、平成 25 年度までの計画です。

策定した当時は全国的な話ですが、自治体病院の勤務医が少なくなり大変な状況だと言うことで、総務省から公立病院改革プランが示されて、それに基づいて策定されたものです。

皆さんも委員になられていると思いますが、あの時は現在から見ると非常にひどい状況の中で 5 年間の計画を立てたということで、先ほども言いましたが病院等ということで市立の診療所、民間の医療機関との連携も含んだ形を国の方では求めていたと思いますが、実際は病院が大変でそこを何とかするかという計画までしか踏み込めなかったと認識しています。

来年度でこの計画が終わりますので 26 年度以降の計画について、25 年度中に先ほど伊藤先生が言われたように仙北市全体の医療についての次期計画というものを策定しなければならないと考えています。もちろん先生たちのお力も借りなければいけないと思います。その部分については 25 年度の中で 26 年度以降、何力年の計画にするのかも含めた計画を策定するというで現在考えているという状況ですので、また今日のようなご意見を反映させて行ければと思っています。

まだ具体的にどういう方々、手法で作るかというイメージのアウトラインも出来ていないという状況ですが、少なくとも現在の推進計画がベースになるであろうと思っています。

この計画を作るきっかけとなった国の部分ですが、現在のところ次の計画を作れという方針はないということですが、仙北市としてこのままこの計画が25年度で終わったあとそれでいいという状況にはなっていないと理解しておりますので、25年度中には次期計画を策定したいと考えておりますので、その節はまたお力をお借りしたいと思っておりますのでどうかよろしくお願いいたします。

#### 委員長

この推進計画の策定の時に、今先生がおっしゃった話も実際出たと記憶しておりますけれども、直接検証委員会ですべき話ではないかもしれませんが、仙北市の医療というものを考えると無視することは本来おかしいと思います。

医療資源ということから考えても、先生たちが頑張っているんですけども、これが未来永劫続くわけでもありませんし、田沢湖病院でスタッフを増やして、病床の利用率が上がったというお話がありました。今看護スタッフを充足するには非常に困難になっている状況ですので、限られた医療資源を効率的に運用するという意味でも、やはりある程度市立病院と診療所が一体化して、役割が違っても完全に一体化するわけにはいきませんが、ある程度それを包括した計画あるいは人員の融通ですとかそういうものを考えないとこれから厳しくなると私も思っております。

是非その辺の計画を検討していただくようお願いしたいと思います。

#### 委員長職務代理者

来年度最後になると思いますが、総括的な意味で、策定してからの5年間はかなり数値が改善していると思います。やはりそれを資料として5年分を出していただきたいのが一つと、〇〇先生の一つのビジョン、ビジョンの一つとしてなかなか事務局だけで提示するのは難しいとは思いますが、どうしても角館総合病院とか田沢湖病院の先生たちがどう考えているのか、考えていることが少し違うのかもしれませんが、病院策定会議の時の資料の中にかなり詳しい現状と将来的な展望が書いてあった資料があると思いますが、そういうものを今後の計画を立てる時に示していただければ、〇〇先生に対する答えになるのではないかと思います。

病院の策定会議の時にどうしてこんなことで病床が減少して各科どういうふうになっていくのか今のこの病床の特徴とかかなり詳しく書いてありました。全然持っていない訳ではなく、かなり詰めてこういうのだからこうやっていきましょうというのがありますので、その資料を出していただければ、なかなかくっきりした像は変化していきますから難しいと思いますが、ある程度はあると思います。

#### 委員長

よろしいでしょうか。

### 3) その他

委員長

あとその他ということですが何かございませんか。

医療局長

今話した次期計画についてお話ししようかと思っておりましたが、今の中でお話ししましたので、それ以上付け加えることはありません。

委員長

それでは、本日の協議はこれで閉めさせていただきます。長時間ありがとうございました。

(終了18:33)